第4回 藤沢市立学校通学区域見直し【北部】ワークショップ
開催結果について

- ・開催日時:2025年5月 22日(木) 午後1時~午後3時
- ・開催場所:湘南台市民センター 地下1階ホール
- ・ファシリテーター:徳田 太郎氏(NPO 法人日本ファシリテーション協会 フェロー)
- ・ワークショップ参加者:6人 見学者:2人 運営スタッフ:5人 合計 13人

○当日配付資料

- ・別添のとおり

議事要旨

1. 開会

2. ワークショップの今後について

北部地域については、おおむねワークショップに参加している皆さんの意見を踏まえた学区案を作成することができたと考えている。これから事務局案を確認していただき、その後、周知、導入についての検討を行っていただくことで、今回をもって北部ワークショップを終了したいと考えている旨、事務局から説明した。

質疑応答

(質問)

前回は、地図を見て付箋を貼るなどの作業をしたが、その後どうなったのか自分たちは振り返っていない。前回は最初から学区の地図を見ながらだったのでわかりやすかったが、地図が提示されずこのまま終わりになると、自分の描いていた学区になっているのか、やった感がない。

(回答)

地図をお渡しすることはできないが、この後、前回の意見を踏まえて修正した学区の地図を見ていただく予定である。

(質問)

以前、学区が知りたくて問い合わせをしたが、文書館で地図を購入してくださいと言われてそのままにしている。学区を知りたくてもそのような方法しかないのか解決できていない。校長室に行けば地図が貼ってあるが、それ以外で学区を確認しようとしてホー

ムページを見ても、何丁目何番地がどの小学校区であると表に文字として記載されているだけで分かりにくい。学区の地図が持ち帰れない理由を教えてください。

(回答)

本日お示しするのは変更案なので持ち帰っていただくことはできない。現行の通学区域の地図については、藤沢市ホームページの学区を説明しているページから直接見ることができないが、ふじきゅんマップというものがあり、そこから学校のカテゴリーを選択すると小学校中学校の学区が見られるようになっている。今後、学区を変更するときにはわかりやすくなるよう工夫をしたい。

(質問)

この道が危険、こっちに回ると安全などについては、地図がなければわからないし、ぴんと来ず確認ができない。他の会合時、空いた時間にみんなで実際に行き確認しわかりやすかった。

(回答)

今回、明細地図の用意はあるが、学区全体で見直しに使用している地図については縮尺が大きく荒い地図になっている。皆様から頂いた危険な箇所についての情報は、その場所が新たに通学区域に含まれるとなった場合には、学校が通学路を検討する際に情報提供するようにしたい。

(質問)

ワークショップの今後について進め方を決めるにあたっての3つ目に、混乱を避けるためとあり、南部と北部を別々にすると混乱するおそれがあるということだが、両方一緒にやる、北部だけ先にやる、南部だけ先にやるという3パターンについてそれぞれを考えた場合、どれも混乱があると思うが具体的にはどういったことか。北部を先にやると混乱が生じるのか、一緒にやらないといけないのか。混乱の理由は何か。

(回答)

藤沢市で大きい計画などの変更をするときは、パブリックコメントとして市民の方から意見を求めることとしている。通学区域の見直しについては、便宜的に北部と南部に分けて行っているが、パブリックコメントを行う場合、北部と南部に分けて行くと、そのいずれでもない真ん中の地区はどうなっているのかなど混乱が生じると思うので、藤沢市全体35校の通学区域を見直すものとして一度で実施した方が、理解が得られやすいだろうと考えている。また藤沢市全体の通学区域の見直しということで、議会報告などの事務手続きについても1回とし、市民へのお知らせについても北部南部それぞれの変更点を明確にして同時に行うこととしたい。周知時期についても、北部と南部で別にするのではなく、藤沢市全体の学区変更の周知を一度に行うということで理解をいただけるものと考えている。

(質問)

藤沢市でやっているのだから一括であることが基本線ということによいか。南部を急いだほうが良いと聞いていたので、北部は1年くらい待っても南部と合わせた方がいいのではないか。北部については、1年くらい待っても平気ということなのか。

(回答)

六会小学校も今年度31学級となっており、急いだほうがよいと考えているが周知のための期間も必要であるため、すぐ変更するわけにもいかない。本事業は5か年計画で行っているので、南北で差がつけられるとしても1年程度かと思う。5か年の中で南北全ての地区の見直しをするとした場合、南北で時期をずらすのではなく南部についても急いで調整をし、一度に進める方が効率良く進められると考えている。

→事務処理等の混乱等があることは理解した。

(質問)

今日が最後だとわかっていたら、出席者が増えたのではないか。昨年までは何だったのかとの意見が出ると思う。

(回答)

ワークショップを案内する段階では、今回で最後としたいという意向はあったものの、決定事項ではないので説明はしなかった。ただその考えについては、事前に欠席の連絡をいただいた方には、返信する形でお伝えしている。本日話し合いの結果、続けるべきだとの結論になれば次回も開催したいと考えている。

(質問)

今日来るつもりだったが、所用で欠席した人もいると思う。自分も今日どうしようかと思ったが来てよかった。

(回答)

本日学区案等を見ていただいて特段問題がないようであれば今回で終了したいと考えているが、意見が反映できていないということで次回改めて学校案を提示する必要があると続けたと考えている。

→今日来ていない人の声が拾い上げられない。最後だと言ってくれば都合をつけて来たのと思う人もいるのではないか。

(回答)

あらかじめ欠席の連絡をいただいた方には、この後のフォローをするつもりで連絡を入れていた。欠席連絡がなく来られなかった方への対応については、特段想定していなかった。結果報告については、欠席した方も含めて連絡予定である。欠席者から説明等をもとめる意見があれば、やり方は決めていないが対応したいと考えている。本日

ワークショップが終わった段階で、今回で最後とすることになれば、結果報告の際にフォローをしていくようにしたい。

(質問)

欠席連絡がなく、欠席した人は何人いるのか。

(回答)

17人中、事前に7人から欠席連絡をいただいております、10人参加を見込んでいたが、本日午前中に欠席連絡をいただいた方が2名、連絡をいただいていない方が2名である。

(質問)

本日欠席連絡をした方には、最後となる旨の連絡をしていないのか。

(回答)

本日、ここで準備をしているときに連絡をいただいたものであるもので、連絡はしていない。

(質問)

南部で、学区の見直しが行われるまでの間、混乱を避けるために、保護者にどの学校に行くか希望を取る手紙を出し、越境の対応をしていると聞いたが、それで過大規模への対応ができていけるのなら、学区の見直しを急いでやらなくてもいいのではないかと。ゆくゆくは学区の見直しを行わなくてはいけないと思うが、現状では対応できているということなのか。

(回答)

今年の4月に辻堂小学校、鶴洋小学校に入学する新1年生の保護者に対して、教室が足りない等の状況で隣接するほかの学校を選んでいただけるという対応をしている。一昨年も辻堂小学校の入学予定者に対して行った。これは目先の教室不足へ対応するなどの理由で、対処療法的にやったものであり、それで間に合っているということではない。現在の学区の見直しは5年間の計画で行っており、5年後には何とかしたいと思うが、それまでの5年間は、プレハブ校舎を作ったり必要な対応をして、子どもたちの環境を整えているところである。だからそれでよいというのではなく、北部も南部も5か年で考えていかなければいけないと思っている。北部についてはこの後見ていただくが、これで大丈夫だろうという案ができたと考えている。

(質問)

六会小学校の過大規模の対応としてそういった越境の対応は行わない予定か。

(回答)

六会小学校は教室が足りない状況ではないので行わない予定。南部は教室が足りないというところから始まっている。あくまでも緊急対応である。

3. 「区域見直し案 ver.2」について

実際に「区域見直し案 ver.2」を見ていただきながら、事務局から地図および変更点の説明を行った。

(質問)

前提としてパズルがはまった状態か。六会小学校の過大規模について5年後はこれで大丈夫だということか。

(回答)

多少、湘南台小学校が多くなりもしかすると教室が不足し、プレハブ等で対応しないといけないという危惧はあるが、六会小学校は平準化される見通しであり、それぞれの学校が数字的に大丈夫だという見込みである。

(質問)

怪しいのは六会小学校から湘南台小学校に変更となる人数が多いというところで、だから湘南台小学校から長後小学校に変更されている場所があるということか。

(回答)

そのとおり。また、住んでいる方の希望でどちらを選んでよいという慣例学区があり、この地区が慣例学区となっている。今回慣例学区自体をなくしたいと考えており、高倉中学校が長後地区の学校なので、それを踏まえ湘南台小学校から長後小学校に変更することとした。

(質問)

人数が多いというところから学区の見直しが始まったものであるが、慣例学区の話もあったため、同時に慣例学区もなくそうと考えているということでしょうか。

(回答)

この地区はそういった考えもある。湘南台小学校もいくらか減らす必要があるということも正直ある。

「区域見直し案 ver.2」について、各グループで話し合った結果、出された意見については次のとおり。

- ・ 湘南台高校北側については、下土棚遊水地公園ができていることから、富士見台小学校へ通学する際の道が安全になるのではないか。
- 本意見に対し、川が氾濫しやすい、ハザードマップの洪水浸水想定区域であることから、災害時に危険ではないかとの意見が出された。
- ・ 今回、六会小学校区から亀井野小学校区に変更したところについては、昔(約40年前)、亀井野小学区から六会小学区に変更したいという運動が起こった場所を含んでいるので配慮が必要ではないか。
- ・ 湘南台小学校区から長後小学校区に変更となるところについて、長後小学校に行く通学路が国道467号(藤沢町田線)を通ることになると思うが、歩道については自転車も通ることがあるため危険ではないか。
- 本意見に対し、現行学区(湘南台小)へ通学する際も国道467号を通るため危険度は同じではないかとの意見が出された。
- ・ 小学校が変更になる自治会については学校が変わることに伴い社体協も拠点がかわることになる。
- ・ 今回六会小学校区から湘南台小学校区へ変更するとして湘南台4丁目のところについては、駅に近い地下道が通学路になるのか
- 現在、湘南台小学校区となっている当該地区の北側の地域については、湘南台小学校に近い北側の地下道が通学路となっているので、今回の変更箇所についても駅に近い地下道ではなく、北側の地下道を使うことになるだろうと事務局で回答。
- ・ 小田急線路東側で亀井野小と湘南台小に変更した個所については意見が様々出るかもしれないが他の箇所は特に意見も出ないのではないか。

※ 通学区域の見直し案については、今回出された意見を付け加える形でワークショップとして承認することとなった。

4. 周知の際の留意点について

周知の際の留意点について事務局から説明を行い、その後どうやって周知したらよいと思うか各グループから意見を出していただいた。いただいた意見は次のとおり。

- ・ 六会小学校のコミスクが今年できたため、そこで共有、アドバイスをもらったかどうか。
- ・ 六会地区の三者連携の構成メンバーに、保育園、幼稚園が入っているため、そこで共有、周知する。
- ・ 産婦人科、小児科、保健所(定期健診時等)等でチラシを配付する。
- ・ ホームページを通しての周知。

- ・ 自治会回覧・掲示板を通した周知。
- ・ チラシの戸別配布。
- ・ 在校生に対しては学校を通した周知。未就学児に対しては保育園、幼稚園、市民センターを通した周知。転入者に対しては不動産会社を通した周知。
- ・ 掲示板は公園近くにあるから見るかもしれない。

5. 導入の際の留意点について

導入の際の留意点について事務局から説明を行い、その後どのように導入したらよいと思うか各グループから意見を出していただいた。いただいた意見は次のとおり。

- ・ 5・6年生は原則現状の学区にした方がよい。
- ・ 先生の意見を聞いた方がよい。
- ・ 直ぐに通学区域見直しの効果を出すために、在校生を原則新たな通学区域にするという考え方は、子どもの立場に立っておらず大人のエゴでないか。
- ・ 在校生について、弟または妹がいなければそのまま残してあげた方がよい。
- ・ 「希望により変更できる」とした場合、希望をどこまで認めるのか。
- ・ 原則新学区に変更するという導入方法について理解できる。
- ・ 「希望」の記載例をどのように書くか考える必要がある。
- ・ 学区が変更となる地区に居住している児童について、原則学校を変更するが、希望するのであれば、変更しなくてもよいといった場合に、「原則」というのをどの程度の強さで伝えるのかにより結果が変わってくるのではないか。

6. 今後について

事務局から今後について次のとおり説明を行った。

本日のワークショップにおいて、学区案については、おおむね意見付きで、今回提示した案でよいただろうというご意見をいただいたので、8月に開催される通学区域検討委員会で報告をする予定である。また通学区域検討委員会でも、導入周知時期等について検討を行っていく。通学区域検討委員会では、今回のワークショップでいただいた意見のほか、学校の意見なども広く聞きながら、最終的に、いつどういった形で周知していくか決めていくことになる。南部のワークショップについては9月に開催することを予定しており、そこから3、4回の開催で1年後には内容を固めたいと思っている。そのタイミングとなったら藤沢市全体の案を固め、パブリックコメント、市議会に報告等進めていくことを考えている。

今回のワークショップの内容については、取りまとめ次第報告する予定である。1年後くらいになると思うが、ワークショップ全体の状況については、皆様に報告したいと考

えている。そのあとについては、既存の児童や幼稚園、保育園や転入してくる方など広く市民に周知をしていき、令和10年4月からは学区が変更になったとなることを想定している。

本日欠席された方についても、案を渡すことはできず、また、この後も、通学区域検討委員会、教育委員会、パブリックコメント等意見をもらう機会があるため、今回の案で固まったとは言いづらい状況であるが、本日決定したことを文面等で説明しつつ、必要があれば説明をする機会を設けたいと考えていることを伝えたいと考えている。

質疑応答

(質問)

主催者からしたら、これで満足できる状況か。通学区域検討委員会に挙げる情報を集めるというのが目的だと思うが、これで十分と考えているか。参加者の思いを切り離して考えるとどうか。

(回答)

ワークショップは、事務局で作成する通学区域案に地元の方の意見を反映させることを目的としている。学区案を作ることが目的であり、前回示した案に対して、いただいた意見を概ね反映できたと考えている。欠席されている方もいるしステークホルダーの方もいるため、100%ではないが、一定の成果になったと考えている。

(質問)

今日参加されなかった方にも個別に対応するとのことだったが。

(回答)

本日の内容について、欠席された方にも出席された方と同じ文面で報告を行うことを考えている。今回で終了することがわかるような文面とし、個別に説明が欲しいなど意見があれば日程調整など対応する予定である。

(質問)

主催者、参加者、欠席者それぞれの満足度があると思うが。欠席者の満足度がわからないので、意見を聞いていただければよいと思う。

(回答)

了解した。

※ 北部ワークショップについては、今回で最後とすることについて、出席者からの同意が得られた。

以上